

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700986		
法人名	株式会社ライフケア		
事業所名	うさぎグループホーム		
所在地	三重県松阪市射和町644-2		
自己評価作成日	令和 3 年 3 月 1 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470700986-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 3 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の家庭的を主体に日々の生活の中で(その人らしさ、思いを大切に、笑いのある暮らし)そんな当たり前の生活をスタッフが常に寄り添いながら協力支援することを念頭に介護させてもらっています。また、一人一人の出来る事を模索し施設での生活に生きがいを感じてもらえるように、スタッフ一同が常日頃考え実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR紀勢線「相可」駅の西方、住宅地内に事業所が立地し、300年来の「射和祇園まつり」の伝統文化を住民が継承している土地柄である。開設16年の事業所の特色は、地元住民である代表兼施設長が看護師で町内の内科医や歯科医等と連携を密にした事業運営を展開し、日常の訪問診療は元より24時間医療連携体制を確立し、利用者の重度化や終末期の看取りケアを実践している。同一建物内にデイサービスセンターを併設し地域の高齢者が利用している。また、子供達が慰問に訪れて地域に根付いた活動を展開して来た。昨年よりコロナ禍で利用者の外出や慰問者等の来訪を中止している中で、利用者が事業所内で安心して過ごせるように、介護経験豊富な管理者を中心に職員一同が工夫をして取り組んでいる。またデイサービスの職員とも協働をし、互いの体操やレクリエーション等の活動に参加をして利用者同士が交流をし、活気が得られるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解をしており、毎年理念に沿った目標を掲げている。	基本理念の「家庭的で温かな雰囲気」等、5項目をホールに掲示している。年度目標を職員で話し合い、コロナ禍の今年は「穏やかに健康で過ごす」と決め、感染防止と利用者が事業所内で穏やかに過ごせるように工夫をして取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園・小学校・中学校等の受け入れ、運営推進会議を通じて地域と交流をしている。コロナが発生してからは不可能である。	近年、事業所に隣接して団地が開発され住宅が増え、コロナ禍で事業所が換気のために窓を開けていたら、周辺住民より騒音の苦情を受けた。自治会長や地元の農協や市の担当者等に相談をし、助言を得て話し合い住民の了解を得ることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、小・中学校の体験学習にて認知症の理解を深めてもらっているが、現状はコロナで対応できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで対応できていない。	従来運営推進会議は、家族、自治会長、民生委員、市・包括支援センター職員が出席し、事業内容の報告と意見交換を行っていたが、今年度はコロナ禍で中止した。当面は、文書にて内容報告と意見を交わし、サービス向上に反映したいと考え、文書の書式等を準備中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染症で市町村との関わりが増えた。	利用者の介護認定更新申請等は、管理者が支所の介護保険窓口へ出向いて代行申請を行っている。また、生活保護を受給している利用者が複数いて、市の援護課担当者と連絡調整を図っている。コロナ禍で運営推進会議の開き方等を相談し助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスで身体拘束の勉強会を行い再確認、再認識し身体拘束しないケアをしている。	通常玄関の施錠は行っていないが、現在、新規入居者の不穏行動が見られるため、職員数が減少している間のみ施錠している。カンファレンスで身体拘束に関する話し合いをしているが、記録として纏めるための書式を準備中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスにて虐待の勉強会を行い再認識し虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今期は勉強会を持って学ぶ機会を持てなかったが、成年後見人制度を利用している利用者が2名あり、意識付けは出来ていると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書に目を通して頂き、締結時にはご理解頂けるように疑問不安を解決できるよう十分な時間を設けて説明させてもらっています。金額は別紙も参照の上細かく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の生活の中で要望や思いを聞けるように心掛けており、家族様においては面会時等に聴かせてもらったが、コロナにて機会も少なくなった。	現在は日常のスナップ写真(全体と個人)を掲載した「うさぎ新聞」と、個別の介護記録の写しを毎月家族に郵送し、電話にて感想や意見を伺っている。コロナ禍で利用者の思いを遂げるには家族との関わりの大切さを痛感したため、事業所として家族との関わり方を検討したいと考えている。	コロナ禍で利用者が事業所内で有意義に過ごせるように職員は工夫をしているが、利用者の思いを実現するには家族との関わりが重要であり、事業所として利用者の思いを家族に伝え、家族と利用者の良好な関係作りに務め、互いの思いを反映した取組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員と代表者の間に入り、聞く機会を設けるようにしている。	職員は、業務や休憩中に気付いた事や要望・意見は随時管理者に伝え、管理者は内容によって施設長に報告をしたり、カンファレンスで提言し、職員全体で検討し意見を業務に反映させている。職員のチームワークが良く離職者が少ない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に入っており、個々の職員の勤務状況を把握し管理者との統率は出来つつあると思う。又職員と、管理者の関係が言い合える関係にあり代表者と検討し反映することも可能となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今期は内外共に勉強会が設けることが出来なかった。しかし、就業時間内、カンファレンスなどで指導・助言をし育てる努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない。コロナでさらにできなくなった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族様に情報収集を行ったり、情報収集が困難な場合は日々の関わりの中で、距離感等を見極め、要望等を言いやすい環境が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談等、入所後も面会時や記録物の送付等にて状態報告を行うようにしている。また、LINE対応の出来る家族様には動画、状況報告が出来るようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の要望を事前に踏まえたうえで、日頃の様子をしっかりと観察し、職員間で情報交換等行い必要な支援をさせてもらうよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意識はしているが、やはりケアをしているという気持ちの方が比率的には多いと思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関わりが遠のいている家族様には手紙や電話等でも状態を報告し関わりを持ってもらえるよう援助している。また、本人の状況に合わせた関わり方も支援し、本人家族双方の精神安定を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以降は面会、外出も難しい。只地域の方が当施設で働かれており、適宜感染予防に気を付けながら面会をして頂いていた。	利用者にとって馴染みの人や場所についての情報は家族より聴き、介護記録に記載して全職員が情報を共有している。ターミナル期の利用者に馴染みの知人を呼んで会わせたことがある。また、射和祇園祭や昔の市内の写真集を皆で眺めて回想し、談笑する機会も設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行にともない孤立しがちであるが、皆が関わりを持てるように意識は持ち対応している。又、関わる中でトラブルに発展することも多々あるが、職員が間に入り、関わりが途絶えない様援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供後も家族に必要な精神ケアを行う為にLINEなどでフォローしており、家族・本人との関係を大切にしたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のケアをしながら随時意思確認し、また意思表示不可能であれば、表情や会話などでもくみ取る様努力している。しかし、一人一人の意向・希望を聞き入れるのは難しい状況である。	日頃無口な利用者には、職員が居室や入浴時に浴室で個別に会話をし思いや意向を聴いている。食べたい物やしたい事等、意思表示が容易に出来る内容で聴くことが多い。聴いた内容は介護記録に記載して、全職員と家族にも伝え、思いに添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集で生活歴、暮らし方を得て、その後は随時本人様はもちろん、家族様や面会に来て下さる方にも聞き、少しでも多くの情報を収集する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々な記録物や伝達にて情報を共有し、把握する様務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを毎月行う中で、必要な情報等をケアマネに報告し、介護計画・モニタリングを作成している。	介護支援専門員が作成した介護計画を基に、毎月全職員によるカンファレンスでモニタリング・評価を実施し、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は出来ているが、個々の感覚や見解の違いもある為、文面のみではなく口頭での再確認も行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化や人員不足により、日々の業務に追われる事もあるが、出来る限りニーズに対応させてもらうよう努力している。コロナでニーズに対応出来ないこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近辺の関わりを大切にしており、幼稚園、学校の慰問、小学校の文化祭に向けて出店するものを作ったり楽しんでもらっていたが、コロナで関わりが途絶えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他にも病状にあった病院、入居以前からの馴染みのかかりつけ医での医療を受けて頂けるよう支援している。	現在利用者全員が掛かりつけ医は協力医と決め、毎月1回訪問診療を受けている。歯科医師による訪問診療や口腔ケアも受けている。急変時には看護師である施設長に連絡をし、協力医と24時間医療連携体制を構築し、相談・助言を受け対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で看護師が対応しており、相談・指示・臨時受診をしている。又、看護師では対応困難時はかかりつけ医に連絡を取りスタッフに指示を出し適切な看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを活用し情報を提供し適切なケアがされる様に支援する。しかし、現在はコロナにて面会出来ず利用者の状況は電話のみの確認となっている。退院時には病院・家族と相談し退院後のフォローがしっかり行えるように情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化時には、かかりつけ医・家族様と適時連絡、話し合いの場を持ち方針を決めチームと協力しながら対応してゆく。マニュアル有。	重度化や終末期のあり方については、入居時に本人・家族に確認しているが、状態の変化があった場合にはその都度確認を行い意向に沿った支援を行っている。殆どの家族が事業所での看取りを希望するなか、職員も一丸となって支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年は外部の救急蘇生等コロナで不可能であったが、不安はあるものの急変時の対応も出来ていた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回のみの避難訓練で、適切な避難誘導には至っていない。訓練回数を増やし、確実に各スタッフが、通報・誘導に慣れる必要があると考えるが出来ていない。	毎年台風の時期に、職員間で災害や避難方法等について話し合っている。昨年、台風の際に停電になり大変困ったため自家発電機を購入した。今後使用方法をマスターし、毎月点検時に起動する訓練をして全職員が停電時に使えるようにしていくことを計画中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいるが、日々の時間仕事に追われ丁寧な対応が出来ていない時もある。また、難聴の利用者が増え声を大にしてコミュニケーションを取る必要が多くプライバシーが損なわれることもある。	日常的に外出やトイレや入浴等に誘ったり、更衣や排泄や食事等の介助を提供する時に利用者への言葉かけに細心の注意を払い、言葉が通じにくい利用者には、スキンシップで意思の疎通を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現出来る方には選んでもらう場を提供し、出来ない方には表情などでくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心や重度の方が優先されてしまい、全員のペースを優先することは出来ていないが、出来る限り希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にて衣替えを行い整容には気をつけているが、その人らしさには至っていないと思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ易い盛りつけや、行事時は季節を感じる事の出来る食事を用意させてもらっている。また、ペースト食も増え見栄えしないが見栄えするように心掛けている。片づけ、盛り付け、調理、味見など見守りながらしている。	毎日の朝・夕食と休日の献立・調理は、職員が交代で行い、昼食はデイサービスの厨房で調理した食事を提供している。朝食のパン又はご飯、行事食は選択メニューを取り入れ、利用者が食べたい物を提供出来るように努め、利用者や家族から感謝の言葉が聞かれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を毎日記録に残し、栄養は嘱託医に随時指導を受けている。一人一人に応じた対応は現状難しい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを確認しながらできないことは援助させてもらい、又自歯のある方は提携歯科による定期検診・口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	約2時間毎のトイレの声掛けの実施。なるべくトイレでの排泄を心掛け、本人様の出来る事はして頂く様声掛けし、見守りしている。	日中は、利用者毎に適切な時期を見計らい声掛けをしてトイレへ誘い、トイレで排泄している。夜間は、睡眠することを優先にして、トイレでの排泄、パットやおむつ対応等利用者に合った排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物(水分管理)や、トイレ時腹部のマッサージ等で促しているが、状態によってはDrと相談し薬を用いる場合、看護師による摘便もある。運動、捕食等で個人にあった予防を対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時予定を組む入浴方法なので、本人希望の入浴は出来ていないが、気分良く入浴して貰えるよう努力している。	週に3日入浴日を設けている。併設デイサービスの機械浴槽の設備を活用し、身体状況に応じて利用者・職員共に安全で負担を軽減して入浴が出来るように配慮をしていう。現在一般浴槽で5名、機械浴槽で4名の入浴介助を提供している。脱衣を拒む利用者には工夫して浴室へ招いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家での生活習慣に合わせて就寝される利用者様もみえる。また、昼寝や日当たりの良い場所でのうたた寝等で休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箋と処方時のDrの説明等を記録に残し理解。把握する様務めている。服薬後も状態を確認しつつ、記録等で情報共有している。特に向精神薬、睡眠剤については常日頃に情報を共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに出来る事を考え、無理なく続けて行けるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い遠出は困難になってきているが、近所への散歩や、近場へのドライブ・日光浴等をこまめに行っている。なじみの場所へは家族様協力のもと外出されている。	現在はコロナ禍で、また新規入居者の不穏行動を見守るために、散歩を伴う外出活動は中止し、畑で野菜作りも職員のみで行っている。しかし、居室前の花壇に利用者がチューリップの球根を植え色鮮やかな花を眺めて楽しんでいる。広い庭の隅に桜の木があり、満開時には花見を楽しむ予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によっては事務所で預かっているが、日頃お金を使う機会を設けてはいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を受けることは多いが、利用者様からは依頼ないため声を掛けて年賀状等の支援をしている。電話においては難聴者が多く対応は難しい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故や怪我のない出来得る範囲でなじみのあるもの等を持参され本人様・家族様の望まれる居室空間にされ、過ごしやすい環境を作ってもらっている。又季節を感じる壁面創作をし飾っている。空調管理にて快適に過ごして頂き、また感染予防に努めている。	ホールは明るく、机が3脚配置され、食事やレク等活動毎に、職員が利用者同士トラブルが生じないように考慮をして席の配置換えを行っている。ペットの猫がソファに寝そべり和やかである。正面玄関の土間には、利用者の作品を飾り、テーブルと椅子を配置し、現在はホール内の利用者とガラス越しに家族が面会できる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間は狭いので難しいが、狭い場所なりにTVを見やすい場所に置いたり、誰でも使用できるように玄関先にソファを置き、日光浴が出来るスペースを確保するなどの工夫をして皆との団欒。個人スペースに用いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのあるもの等を持参され本人様・家族様の望まれる居室空間にされ、過ごしやすい環境を作ってもらっている。(身体精神状況によっては、転倒等の怪我危険の為馴染み物も仕方なく除去させてもらっている)	各居室に共通して、ベッド・クローゼット・洗面所・エアコンの設備が備わっている。寝具やテーブル・椅子等自宅から馴染みの用具を持ち込み、家族写真や作品を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・解る事を把握したうえで、危険のない範囲で見守り、自分で出来る事を減らさないよう支援している。		